

令和5年度 学校自己評価システムシート

学校評価委員会作成

目指す学校像	建学の精神「自立した個人の育成」を踏まえ、「質実・英知・愛敬」の校訓を具現化するとともに、新しい価値を創造する人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> どのような力を生徒に育成するのかを明確にし、教育活動を見直し改善していく。 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路実現を図る。 安心して安全な教育環境を整え、規律ある学校づくりを推進する。 保護者(後援会)・同窓会・地域との連携を密にして、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者・第三者評価実施日とは、最終回の学校関係者・第三者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価						学校関係者・第三者評価		
令和5年度目標					令和5年度評価(令和6年3月31日現在)		実施日 令和6年 2/17、3/9	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>昨年度からはじまった3コース制が、1、2学年で運用される。生徒の資質・能力や進路希望などが異なるため、コース毎に設置したコース会議を軸に学力の向上を図っていくことが課題である。</p> <p>「総合的な探究の時間」の中心に位置づけている研修旅行を、希望により海外と国内で実施する。その成果を踏まえて論文作成に繋げていく取り組みが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①コース毎に実施する独自の取り組み。 ②グローバル人材の育成について、継続及び新規事業の取り組み。 ③「総合的な探究の時間」の取り組み。 	<ol style="list-style-type: none"> ①各コースの特性を踏まえたガイダンスや課題研究学習を実施し、生徒一人ひとりが適切な将来設計ができるような教育支援を行う。 ②イングリッシュキャンプ後に実施する希望制の活動計画(GLコース)の作成、海外(希望制)研修旅行実施に向けた準備を実施する。インターナショナルプログラムのうち、新規に実施する海外大学進学説明(1,2年)及び夏の英語プログラム(2年)の具体的な運営と評価を行う。 ③1年次からの取り組みが、2年次でのテーマ別研修及び現地調査に役立っているかを検証する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりが将来を具体的に考え、計画を立てることができているか。 ②実施した新規事業について、生徒・保護者の満足度調査を実施し、その結果を次年度以降の改善に繋げることができたか。 ③各個人が決めた研究テーマに沿い、論文を完成させる準備が進められているか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①1、2年SAクラス合同で課題解決学習を東京・明治大学の研究室及び野村證券で実施した。毎年満足度が高い。 ②海外大学進学説明は3回実施し、現在2名の生徒が希望している。夏の英語プログラムは27名が参加した。 ③初めて実施した海外研修旅行とリンクさせて実施した。調査テーマを決め現地調査終了後にまとめ上げ、成果発表を行った。論文執筆に向けて生徒が主体的に活動できる基礎を築いた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で新コースとなる。1,2年のEL・GLコースの課題解決学習の設置が課題である。 ○夏の英語プログラムは満足度が非常に高い。英語力のスキルアップとして継続していく。 ○海外研修旅行と総合探の論文執筆がより円滑にいくために、教員間での共通認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SA教育改革で実施してきた課題解決学習の成果をEL・GLコースで実施し、学力の向上に努めてほしい。 ○インターナショナルプログラムの英検講座とタム留学について、生徒の満足度が特に高く効果が出ている。このプログラムは本校独自のものでありグローバル教育に期待が持てる。 ○3学年の生徒全員が、総合探求での成果を踏まえ、論文を完成させることは素晴らしい。その指導を全教員で行うことが本校の特徴になっている。
2	<p>学習意欲を向上させ、自立自励の精神を養うための指導を継続して行っていく。特に今年度は、自学自習の習慣化についての定着を図っていくことが課題である。</p> <p>進路指導関係では、将来の職業を見据えた大学選びや学部選びが主体的に行えるように進路指導を行っている。そのために、1年次からはじまる進路計画で一人ひとりの進路実現を図るため、3年間の段階的なプログラムを実施していくことが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①学習習慣の確立と学習時間の増加 ②自学自習を促すための環境づくり ③主体的・自主的な進路選択力の育成 ④教員の資質向上への取り組み 	<ol style="list-style-type: none"> ①担任がクラスシーを有効活用し、日々の学習記録の確認を積極的に行い、学習時間を増加させる。 ②特別自習室と図書館の自習スペースの利用時間の延長を望む声に応える。それに合わせて、安全対策についての方策を検討する。 ③本校が発行している「進路情報の手引きとデータ編」を計画的に活用し、HRを中心に発達段階に応じた進路指導を実施する。 ④授業評価アンケートの実施や研究授業を通して授業改善に取り組み、授業力の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の学習意欲や生活リズムが維持できたか。昨年度と比較して家庭の学習時間が増えたか。 ②昨年度と比較して2つの自習室の稼働率が上がったか ③大学出張講義(1年次)、ブース形式で行う学校別分科会(2年次)等を通じて、進路意識が高まったか。今年度からの高大連携事業が生徒の進路実現に繋がっているか。 ④生徒の学校満足度調査の結果を前年度と比較し、教員の授業力の向上が図られたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①昨年度の上半期反省結果と比較し、どの学年でも、家庭学習時間3時間以上の生徒が約30人増えている。 ②特別自習室は常時15名以上が利用し、試験週間では、満席状態である。 ③6つの進路行事を行い、各学年の段階に応じた進路指導ができた。今年度から昭和女子大学との高大連携型特別入試を実施した。課題遂行型プログラムを受講し19名が認定された。併願制のため進路選択の幅が広がった。 ④本校の教育に関しては、調査結果から満足度は学校全体で約77%であり、昨年度とほぼ同様の結果が得られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○継続して家庭学習時間の確保と定着は、どの高校でも課題となっている。さらに生徒個々の進路目標に合わせて、学習意欲を向上させるための工夫が課題である。 ○特別自習室は、夜間に使用する生徒の安全対策と教員の適正な勤務管理の確立が課題である。 ○大学での講義受講や入試での連携のみならず課外活動の交流も含めて、高大連携事業を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の確保と定着は、どの高校でも課題となっている。それぞれのコースで才能や個性をさらに伸ばせるような教育活動をお願いしたい。 ○定期考査前の特別自習室の利用度は高く効果が出ている。生徒のニーズに応え、図書室、進路資料室、相談スペース等、さらに自習スペースを充実させてほしい。 ○今年度実施した高大連携事業は生徒の進路実績に効果があった。今後も進路指導部と連携し、拡大して行ってほしい。
3	<p>第一グラウンドは、雨天等で体育の授業や部活動の活動に支障をきたしている。人工芝化により、翌日にはグラウンドが使用可能となり、授業・練習環境は向上する。</p> <p>生徒は規律ある学校生活を送っている。今後も生徒がさらに主体的に判断し、他者と協力・協働できる意識を醸成していくことが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①人工芝化工期の教育活動の工夫。 ②基本的な生活習慣の確立 ③部活動・生徒会活動・学校行事の充実 ④成人教育の実施 	<ol style="list-style-type: none"> ①9月下旬から翌年3月下旬までの工期に、授業や部活動の活動が円滑にできるように、人工芝化検討委員会や関係機関との連携を強化する。 ②昨年度から実施している風紀委員会の「校則見直しのためのアンケート」を継続して実施し、生徒指導部を中心に見直しを図る。 ③コロナ禍における対策が緩和し、より生徒の主体性を育む観点から、部活動・生徒会活動・学校行事をさらに活性化させる。そのために教育活動全てに係る適切な対応の見直しを図っていく。 ④成人教育外部指導者及び本校の家庭科・公民科等の教員で実施し、生徒の意識を喚起する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①検討委員会や関係する教職員が連携し、教育活動が停滞しないような工夫が見られたか。 ②校則の見直しをすることで、生徒がより主体的に校則をとらえる事ができるようになったか。 ③生徒会主催の学校行事で、主体的な活動が見られたか。部活動の実績が昨年度同様かそれを上回ったか。 ④講演会や教科指導等で、生徒の意識が変わったか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①既存施設及び外部の代替施設を有効活用したことで、体育の授業や部活動に大きな支障は生じなかった。 ②風紀委員会が全校生徒を対象に実施したアンケート結果を受け、生徒諸規定の見直しを実施した。 ③執行部にとっては未経験で試行錯誤の連続であった。しかし工夫をこらし多くの行事を行い成功させた。 ④契約・消費者信用・クーリングオフについて、授業で扱った。定期考査で知識の定着を確認できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○風紀委員会の活動を通じて、生徒が校則に対する理解を深め、自分たちのものとして守っていく態度を培うことが課題である。 ○従来の学校行事を見直し精選し、新しい取組を実施していく。 ○問題商法の手法が巧妙化している。注意喚起を促すため、教科と連携した講演会を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ○風紀委員会実施の「行為側に関するアンケート」が2年目になる。引き続き生徒の考え方も反映して欲しい。 ○文化祭は悪天候のため予定を変更し、体育祭は初めて野田グラウンドで実施したが、生徒・後援会の協力もあり成功した。学校行事は生徒会とも相談し進めてほしい。 ○今年度の成人教育は、教科指導を中心に行った。成人教育の取組に創意工夫が見られた。
4	<p>地域や保護者との連携を密にし、学校行事や部活動の様子をタイムリーに発信し、開かれた学校を目指す。さらに今年度は、100周年記念事業での本校の役割を果たしていくことが課題である。</p> <p>昨年同様に中学校・塾や地域との連携を強め、教育実践や教育活動についての広報活動を推進し、生徒募集に繋げていくことが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①信頼にこたえる開かれた学校づくり ②創立100周年記念事業の実施 ③情報発信と生徒募集の強化 	<ol style="list-style-type: none"> ①今年度は定期的に委員会を開催し、各委員からの意見を参考にして、開かれた学校づくりを推進していく。 ②三校連絡会議の決定を受け、部会(記念誌、記念祭、教育環境の充実)毎に計画を遂行する。特に記念祭は「生徒・学生合同委員会」を組織する。 ③HPを通して学校の最新情報を発信し続ける。また、教職員が一丸となり、新体制の特色を強く打ち出している。塾訪問・中学校訪問・個別相談会を実施して行く。 	<ol style="list-style-type: none"> ①委員と教職員が意見交換を行い、その成果を学校運営や改善に役立たせたことができたか。 ②各部会は計画通りに遂行しているか。記念祭合同実行委員会は予定通り開催できているか。 ③学校説明会や個別相談会を通じて、募集人員に関する分析を行い、目標とする定員確保ができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①コロナ禍の影響で両委員会とも3学期にまとめて実施し、有意義な意見交換を行った。 ②記念誌・教育環境ともに終了。合同実行委員会は14回実施し、テーマからパフォーマンスまでを作り上げた。 ③学校説明会を7回、個別相談を5回、イベント相談会を5回実施。その結果、適正な入学者を確保し、教室不足にも対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○評価委員会を2回開催し、より開かれた学校づくりを推進していく。 ○創立100周年記念事業を学園・後援会・同窓会が一丸となり推進した。 ○昨年度から中学1,2年生対象の説明会を実施している。今後は生徒主体で実施し、募集に役立たせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の学校評価は、システムシートを軸にPDCAサイクルで実施されている。次年度は2回の評価委員会実施をお願いしたい。 ○100周年記念祭には、本校からは生徒・後援会サポーター100人以上の協力があり、貢献できた。 ○中学生は、自分の未来像として生徒を見に来ている。生徒を前面に出した説明会をお願いしたい。